

マルセイニュース 8月号

発行日 2017/8/22
株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL0146-22-5123

第55回 浦河港まつり



着付けを終えた中学生も一緒に記念撮影



「港まつりで浴衣の着付けします！」地域おこし協力隊の山口さんの呼びかけで楽しい企画が初登場！浦河生まれの同級生の協力で港まつりに華が添えられました。こういうのっていいですね〜♪ 浴衣の着付けは14名、ヘアアレンジは24名！浴衣姿がお似合いで、みんな笑顔のちょっと華やかなテントの登場にお気づきでしたか？



1、着付けのできる人、ヘアアレンジができる人、髪飾りを作れる人。それぞれの「できる」を持ち寄って、お祭りの新しい楽しみの誕生でした！



夏季はメンテナンスに取り組んでいます “ストーブ分解整備”順調に進行中！

お宅のストーブの状態はどうか？ 8月に入ってからも「家のストーブも、そろそろお願いした方がいいですよ？」と分解整備のご相談や問い合わせをいただきました。ストーブは高価な生活必需品です。手入れをしながら、できるだけ長く使っていただきたいと思います。分解整備は ☎ 22-5123 にお問合せ下さい。



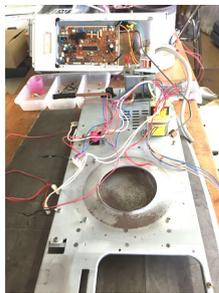
冬の準備は 始まっています♪

「暑いね〜」と言う日もあと何日あるでしょう。朝夕と、肌寒さを感じる日もある今日この頃ですね。お盆が過ぎるとあつという間に秋を意識してしまします。次の冬への準備もスタートしていますよ。

春からのご予約順に分解整備を進めています。外見がきれいなストーブでも、分解すると内部はホコリまみれですよ〜と、何度も写真でご紹介してきました。そこで、今日はちよつと楽しいご紹介ですよ〜♪

左下の写真をご覧ください。よく乾いたししやもとかラフルな子どものおもちのBB弾の玉です。先日、お客様のストーブを分解したら内部から出てきました。よくあるのは鉛筆やボールペン、洗濯はさみでしようか。ししやもは今回が初めてでした。

分解整備はまだこれからが本番！ 暑い日でも必ず実施する整備前後の試験燃焼の時は、もう汗だくの恭平くんです。ただでさえ汗っかきなのに、頑張つて整備に取り組んでいます！



7月31日(月) 総合文化会館 「観光ワーキンググループ会議」に参加



今回は、参加者の自己紹介の中から「できること」バンクのリストも紹介されました。この資料を基に、お互いに声を掛け合っていました。新しい交流や活動がうまれますように！

一般社団法人 浦河観光協会主催の第3回「観光ワーキンググループ会議」に、社長とマックスが参加しました。今回も10代から60代？の民間行政を問わない様々な業種の方々が40名ほど参加していました。高校生や今年入った役員職員の参加がフレッシュな勉強会でした。

浦河の牧場に嫁いだ高村さんは、大好きな馬をもつと知ってもらいたいと仲間と一緒に馬のオリジナルグッズの製作販売も始めている方です。「うらフェス」でも大好評でした。若い人たちが奮闘して、新しい取り組みが生まれているのが楽しみです！

若い人たちの 奮闘と活躍に注目！

今回はゲストスピーカーに、浦河にUターンして起業した「マイクローゼーション」の永田貴之さん、話題提供として、サークル「atelier runpacca」の高村はるかさんのお二人からお話をお聞きしました。

8月8日(火) 堺町S様宅 物置の中、片付けました！



片付け仕事には暑すぎた。ピカピカの天気の日、終日フル回転で暮らしのサポート事業を頑張りました。強風が吹くたびに老朽化した物置が気にかかっていた、解体を決めたお客様からのご依頼でした。倉庫内を片づける仕事です。

が、中は見ため以上にたくさんモノが入っているものです。この日はマルセイで一番大きな車両を用意して、クリーンプラザに運びました。日差しが強い日の外仕事はちよつと堪えますが、若者同様に頑張った社長、腰は大丈夫だったかな？(笑)

会社のガスコンロ 最新型に買い換えました 「グリル 新 革命」使いこなせるかな～



会社のガスコンロを買い換えました！ピカピカの最新型です。うれしいなあ～^^でも、今まで使っていたコンロもまだまだ現役で使えそうです。点検整備をした後は、貸し出し用として備えておくことにしましょうね。ガスコンロも高価な生活必需品です。ストーブと同じように、手入れをしながら大切に使用したいです♪

最新式ガスコンロに モデルチェンジ♪

設置する壁は左側。なので、選ぶのは強火力バーナーが右側のコンロです。ガスコンロを選ぶ時のポイントの一つですが、ご存知でしたか？ 実はガスコンロのこのとつて、知ってるようで知らないことや、まだまだ使っていない便利機能があたりりしませんか？ マルセイで便利機能の中でいちばんよく使うのが、「自動湯沸かし機能」です。モーニングコーヒーを楽しむ社長が毎朝利用しています。沸騰したら自動で消火してくれるし、音で「お知らせ」もしてくれるので少し離れても安心。だからとても重宝

ホントに便利な 「自動湯沸かし機能」

なんです。「自動湯沸かし機能」の使い方はとっても簡単ですよ。まだ使っていない方がいたら、ぜひ使ってみてください。ホント便利なのでおすすめです♪

ところで、電気ポットや電気ケトルを使っている人も多いようですが、それって意外と「電気代」がかかるんです。時間の方も意外とかかりますね。だから、当社ではやっぱりガス！ ガス屋だからではありませんよ。一気に沸かして一番早く沸騰するのは

やっぱりガスだからなんです。

新しいコンロで一押しなのが、広いグリル！ 水なし両面焼きのワイドグリルで、深めのグラタン皿だって調理できるほどの広さなんです。これなら食材の出し入れもラクラクで、ホッケの開きだって一枚のまま楽に焼けそうですね。（高価になったホッケの姿は、しばらくわが家の食卓では見てませんが…）

グリル対応調理器具 使ってみました！

さて、今回はコンロと一緒に、パロマが販売している両面焼きグリル対応の「ラ・クック」という調理器具を買って使ってみました。要するに、グリルで使う、鍋でもフライパンでもありという感じのモノです。

早速、今月の「ガスでクッキング」の料理で使ってみました。フタをして使うので油の飛び跳ねがありませんでした。脂が多い豚バラ肉の料理でもグリルの中はほとんど汚れませんでした。これはいいですね。これから気軽に使って料理のレパートリーを広げてみたいです。

ガスコンロの便利機能は上手に使いこなして、ガスでおいしくクッキングしていきましょう♪



新しいガスコンロの機能をチェックした後で、記念すべき調理デビューは社長が担当。でも社長、何だか肩に力が入ってませんか？ それでも上手にできてうれしそうですね～

お盆に片付けたかったごみの処分 お手伝いさせていただきました！



暮らしのサポートで、「今からすぐに、お願いできませんか？」と、急な依頼のお電話をいただくことがありますが、それは少し無理な事が多いです。できれば少し余裕を持ってご相談下さい。どうぞよろしくお願いたします。

お盆に帰省した家族が片付けてくれたので…と要らなくなったモノの運搬処分のご依頼を頂きました。物置の中がスッキリしたので、とても嬉しかったです。お客様の笑顔でした。お役にたてて良かったです！





多くの方が亡くなりました。この中で現在ご存命の方は、3名です。



この永田さんの「日の丸寄せ書き」は、この日浦河町博物館に寄贈されました。



特攻隊として死なずに済んだ、人を殺さずに済んだ先達が心から伝えたいこと 「日本は二度と、戦争はしてはいけない」 永田克美さん

「毎月マルセイニュースをありがとうございます」。そう言って会社を訪問して下さった永田克美さん（92才）とご縁をいただき、ご自身の戦争時のお話を聞かせていただきました。お話を伺ったのは数時間でしたが、伝え残したいことが短時間では語りきれないほどあることがひしひしと伝わりました。「あの時代の記憶が風化されませんように!」「戦争の時代を忘れまい」という思いと、「もう二度と戦争はしてはいけない」との願いを強く抱いている永田さんです。お聞きした少年兵としての実体験とその思いをみな様と分かち合えたらと思います。

マックス



8月3日(木)、お話を聞かせていただきに堺町の「自宅へ伺いました。奥様の幸子さん(89才)と二人の暮らしの風景は、まるで映画「人生フルーツ」の浦河版だと思いました。広い庭の草取りも畑での野菜作りも、二人で体を動かしながら日々の生活を営んでいらつしやいます。60才から始められたという習字の道具を見て、私もこれから何か始めなくっちゃ!と勇気を分けていただきました。自分のできることをできるあいだはする。したいことをする。こつこつと続ける。どれもが大切にしたいことですね。家の外

「日本は二度と戦争をしてはいけない」。そう語る大正十四年生まれの永田克美さんは、現在92才。浦河で生まれ育った昭和の世代なら「永田牛乳屋さん」でおわかりいただけるのではないのでしょうか。昭和9年から宅配をしていた牛乳屋さんです。私が忘れられないのは、浦河日赤病院の各病室を回って牛乳を販売をしていた永田さんの姿です。「いかがですか」と病室に永田さんが来てくれるのが嬉しかったことを思い出します。

少年飛行兵に憧れて

昭和18年の夏、少年飛行兵になるための陸軍特別幹部候補生制度ができたそうです。当時は徴兵制度があり、満二十才になると兵隊検査を受ける義務がありました。その年の秋に自ら志願して、まだ18才だった永田少年は少年飛行兵になるための試験を受験。翌年には繰り上げ徴兵検査を受けることができたのですが、それも待ちきれないほどに憧れていた飛行機乗りになリたかったそうです。

同級生5人くらいと一緒に、苦小牧で学科のみの一次試験を受験。可否の通知は誰にも届かず、今でも忘れられないほどがっかりしたそうです。ところが翌年の5月末、「7月2・3日の2日間、東京の新宿へ二次試験に出頭せよ」と記載された一次試験合格のハガキが届きました。永田少年は室蘭日鋼製作所の永森君

という人と二人、汽車と青函連絡船を乗り継いで初めて東京へ。試験場には全国からはもちろん、日本名に改名させられた台湾や韓国からの人も試験を受けたにいました。広い会場で、2日間で千名くらいが受験していたそうです。初日は学科のみで、二日目は色々と身体的な検査が繰り返されました。面接では、永田さんは自分で志願してきたことを伝えたそうです。

「今から番号を読み上げられた者は四列縦隊に並べ!」。高い台からメガホンで、整備兵や通信兵の組ごとに分かれて並ばされました。呼ばれなかった人は不合格です。永田さんと永森君の二人は最初の組でしたが、この組が八月一日入隊の操縦兵の組と知り、飛び上がらんばかりに喜んだそうです。希望をもって向かった初めての東京行きで、志望したところに入れた永田少年は名誉にも思いました。でも、「勝った!」ばかりの大本営発表のニュースは大うそで、実際は食料も薬も運ばず、餓死と病死の兵隊ばかりだった戦況も知らず、自分が入ったのが特攻隊になる組だったことを知ったのもこの後の事でした。



「世の中のこともわからず、見ざる、言わざる、聞かざるの三つ、言われたとおりにする時代だった。わかっていなかったんだ。」と呟いていた永田さんでした。



平成 18 年
発行の第 25
号『文芸う
らかわ』に
寄稿された
永田さんの
随筆から一
部をご紹介
させていただきます。

その月の七月二七日、九州福岡の太刀洗飛行学校に入るべく浦河から一人出発した。当日朝、浦小の川村清一先生(のち参議院議員)が小学校の鼓笛隊を指揮して神社参拝、駅まで送ってもらい、八月一日、操縦士の卵として第七中隊(石塚隊)に入隊した。九州は流石に暑く、頭から滝のような汗が流れ、軍靴の中は川を歩いた様になった。ラジオもなく戦況のことなど勿論わからず、手紙などは全部検閲されてから本人に渡される始末だった。

「滅私奉公」とか「火の玉の如き闘魂を持って」等のスローガンに、若かったので続いたのか、滑空機(グライダー)をゴムひも(索)曳船で原始的な方法で交代して乗る。それも空襲警報となれば機体を隠すのおおわらわ、我々は逃げる間がなくその場に死んだふりをし、目と耳に手を当てて転

がつていた。
(永田克美さんの随筆「我等、戦争の時代を忘れまい」より抜粋)

飛行機乗りの夢は手にしたものの、夢と現実が大きく違うものでした。入隊後、外地行き(シンガポール)を命じられ、いつ出発かわからない中、皆と訓練を続けていました。でも、ある夜のけがから破傷風にかかり恐ろしいほどの高熱で入室(軍隊で言う入院)。その間、永田さんの代わりの人が十二月末に佐世保から出航し、船は台湾沖で魚雷にやられたとの事を、二月中旬、奈良にて風の便りで知ったそうです。



友人の写真を見ながら...

「どこに行つても人に恵まれた。それは軍隊でも同じだった」

「運隊」とも言われていた軍隊で、破傷風で命拾いをし、結果として特攻隊として命を落とすこともなく済みました。いくつもの飛行場を転々と移動させられた後、敗戦のラジオ放送を聞いたのは北伊勢飛行場でした。

丸一年余りの軍隊生活を終えて浦河へ向かうとき、大内大尉が「お前は一番遠いところに帰るのだから持てるものは何でも持って帰れ」と蚊帳や大尉の軍服までも持たせてくれたそうです。道中、北上するにつれてどんどん人が少なくなっていく中、弘前辺りで向かいの席に乗ってきた人と出合いがありました。

どちらまで帰るのかと声を掛けられた。会話の中で、私は死ぬ覚悟で特攻隊を志願して家を出たので帰るのが心情として辛いことを話したら、その方曰く、日本が負けた方が良かったという時が来る、その為には先ず無事帰った事を親に報告し、若いのだからこれからの日本の為に働きなさいと論された。(中略)色々なお話を聞き、列車が青森に近づくと、僕の家は焼かれたが娘の家が残った、今夜は泊まって行くようにと言われ、天の助けとばかり一泊させていただいた。

(永田さんの随筆より抜粋)

室津哲三さんというその方は、後に青森市で海鮮問屋を営みながら、全国の保護司会の理事など多くの公職に就いていた方でした。一人の青年の行く末を案じての訪問だったのでしようか。汽車での出会いの数年後、驚くことにわざわざ浦河まで永田さんを訪ねて下さったとのこと。室津さん亡きあと、ご家族との交流は続いているそうです。

「私は、戦争の為死んでいった同僚のことを思い、苦しかったあの時の気持ちも片時も忘れられない。若い世代の方々にあの時代のことを伝えてゆくのが本場に必要な時が来たと思います。」十年以上も前に書かれた永田さんの随筆の締めくくりの言葉です。この想いと重みは、今、より一層強くなっているように感じながらお話を聞かせていただきました。

「戦後72年。よくぞ生きてこられたと不思議に思う」とご自身の人生を振り返りながら、「もう二度と戦争はしてはいけない」と繰り返し訴えていた永田さんの瞳の奥には、たくさんの友人たちが映っているようでした。



永田さんが入隊時に持参した「日の丸寄せ書き」を保存していると知り、ぜひひと見させていただきました。白の絹布の大きな日の丸を囲むように、いずれも達筆な筆文字で寄せ書きされていました。故人のものではないので幾分気が楽だったとはいえ、緊張しながら拝見させていただきました。

「陸軍幹部候補生 操縦兵
祈 征空武運 永田克美君」

忠義、誠忠、忠君、滅撃、米英撃威、攻撃精神など、書き添えられたこれらの言葉から当時の状況が伝わります。この時代を生きた方々は、どんな思いで浦河駅から永田少年を送り戦渦を生き抜いたのでしょうか。

これからの時代も「戦争を知らない子どもたち」の世代が続きますように！

私は、「戦争を知らない子どもたち」という歌が流行った昭和の時代に生まれました。浦一中の合唱コンクールでこの歌を唄ったことを忘れません。歌詞にあるように平和の歌を口ずさみながら育ちました。

敗戦後72年の年月が過ぎました。戦争を知る世代から当時のことを直接聞かせていただけの機会には残り少なくなっています。戦争を知らない私たち以降の世代がこのままずっと戦争を知らずに生きていくために、知っておきたいこと、知っておかなくてはならないことがあると思います。今回、永田さんからご自身の戦争時の体験や今の想いを聞かせていただいて、改めて、決して戦争をしない日本であり続けることの大切さを痛感しました。

マックス



永田さんの家の庭に設けられていたバードテーブルには、お米がたくさん用意されていました。



最近読んだ本の中より…



『チャヴ 弱者を敵視する社会』

オーウェン・ジョーンズ著 (有海と月社発行)

グーグルで「チャヴを殺す」と入力すると、「チャヴを殺す五つの方法」「今すぐクソチャヴを殺せ」といった検索結果が何十万件も表示される。チャヴを撃ち殺す「チャヴハンター」というゲームまである。紹介文には「チャヴハンターは八十年代のラッパーみたいな身なりのカスどもを殺すゲーム。スナイパーになりきって頭を打ち抜け」とある。「年間四千人のチャヴが安酒で死んでいる。なんでも役にたつものだ(笑)」とはあるフェイスブックの投稿だが、このサイトには75万人ほどのメンバーがいた。(本文より)

「チャヴ」とは、イギリスの白人労働者階級を指す「蔑称」です。チャヴは身なりがだらしくなく、粗野で、きちんとした英語を話せず、働く意欲もない世の中のクズだという見方が、ある時期からイギリス社会全体に共有されていきました。

「チャヴ」とは

白人労働階級を指す

「蔑称」のこと

テレビや週刊誌はもちろん、有識者と呼ばれる類いの人たちからも、言わば安心して差別してよい対象とされていったのがチャヴでした。「あいつらは何一つ生産的なことはせず、納税者に大きな負担をかけている」とはあるコメンテーターの言葉ですが、向上心のないどうしようもない連中という烙印を押されているのが、チャヴと呼ばれる白人労働者階級の主に若者たちです。世の中全般の一方的なこの見方に、敢然と異議を唱

えたのが著者のオーウェン・ジョーンズです。

本書によると、かつては上の階級からも一目置かれ、自らも誇りを持って社会を担っていたイギリスの労働者階級はサッチャーによって破壊し尽くされました。しかし労働者階級のなかでも、私立校からエリート大学へと進学することができた人々は、高度な技能職や安定した公務員職へと進むことができ、(中流階級)へと上がっていき、(下流階級)の人たちが、自助努力を声高にとなえたサッチャーの強力な支持者になつていきます。

一方、サッチャー改革によって職を失った人々の相当数が、負のらせん階段を降りていくことになりました。その中からは「俺が貧しいのは移民のせいだ」と考える排外主義者・民族差別主義者が多数現れてきます。読み進めながら、これはイギリスだけの話ではないと思

ました。日本とよく似ているし、アメリカも同様です。根本の問題は、「家族を守るのに十分な収入を得られる仕事が、十分に無いこと」なのですが、そういう政策を進めているのは当然ながら外国人労働者ではありません。著者は名門の

日本もアメリカも

「家族を守るのに十分な収入を得られる仕事がない」

オックスフォード大学出身ですが、こんなふうにしていません。オックスフォードの学生は、自分にはその能力と価値が備わっているからここにいたいと考えがちだ。逆に、チャヴは怠け者だから社会の底辺にいる。それは自分の責任だ、と。実際にはオックスフォードの高額な学費(大多数は高校も高額な私立校に通っていた)は彼らの親が負担していますから、彼らは自分の力「だけ」で教養や専門知識を身につけ社会のエリート

になるわけではありません。同じように、学歴や教養が無いために職が無く、たとえ麻薬におぼれていたとしてもその責任がチャヴと呼ばれる若者たち「だけ」にあるわけでもありません。

同じ社会を構成する者同士のはずなのに、相手が弱者とわかると束になって襲いかかり笑いのにする社会。笑いのものにして良いとする「自己責任論」の限界を直視して、公正な社会を目指していこうという著者の呼びかけには共感しました。最後にあとがきの一節をご紹介します。

「言うは易く行は難し。それでも私は、不公平を乗り越えてきた祖先の伝統を受け継がれ、困難はあつても、今よりはるかに公平なイギリス、そして世界が作られていくことを心から信じている。」(本文より)

社長

“ 浦河で過ごした「夏休み」の想いで ”



血縁はなくても親族が、昨年の夏休みみから一人で飛行機に乗って遊びに来るようになりました。小学校3年生のケンくんです。

友達もいなくて退屈しているかと思いきや、サッカーボールひとつ持って公園に行くと、そこにいる子どもたちが一緒に遊んでくれるそうです。子どもたちから「凧揚げおじさん」と呼ばれて親しまれている木村さんともすでに顔見知りです。凧揚げも楽しんでいました。良かったね。私もケンくんと一緒に、ちよとだけ釣りに出かけました。久しぶりで釣りの磯の三オイに驚きながら「釣れなくても楽しいね」と何度も竿を振りながら、岸壁で出会ったおじさんからヤドカリをもらって大喜び。ヤドカリを見たのも初めてのことでした。

夏の夕暮れのほんのひととき。遠い日の夏休みの思い出が一瞬よみがえりました。

マックス



お父さんの田舎で夏休み、楽しいね♪



豚バラの脂がとっても甘くておいしくできました！

グリル ガスを使っておいしくクッキング グリルで“塩チャーシュー”

グリル用の調理道具を使うとっても簡単なレシピで、久しぶりに社長の登場です。それがなんと、オール☆☆☆という驚きの結果でした！ もっぱら魚を焼くだけというのが多いガスグリルですが、これからは色々な使い方をご紹介しますよ。一緒に“ガスグリルの達人”を目指します？^^



●材料（2本分）

- ・豚バラブロック 2本(約300g×2)
- ・ねぎ(青い部分) 1本分
- ・生姜 2片

- 【A】 塩 小さじ1/2
酒 大さじ2
こしょう 少々



波型プレートは余分な脂が下に落ちるのでヘルシーなんですって^^



グリル焼き時間

上火→ 弱火
下火→ 弱火
15分
その後余熱で
15分

●作り方 ガスのグリルで簡単おいしい1週間 ラ・クック絶品レシピ参照

【このレシピはグリルを先に予熱しておきましょう】

1. 豚肉はフォークで数か所刺して味がしみ込みやすいようにする。
2. フリーザーバッグに【A】と、豚肉、ねぎ、薄切りにした生姜を入れてよくもみ込み、冷蔵庫で2時間以上おく。
3. ラ・クックに豚肉を並べ、その上に漬け込んだねぎと生姜をのせて、ふたをして15分焼く。
4. 焼きあがったらグリルから出さずに、そのまま15分以上、余熱でじっくり火を通す。



3ページで紹介した最新式のガスコンロで、早速グリル料理に挑戦してみました。選んだ食材はやっぱり豚バラでしたね。誰かさん、どれだけ豚バラが好きなのでしょうね。フフところで、「ラ・クック」って名前は、料理が楽ちん！ってことでしょうか？ これ、ちょっとだけ笑えますね。

レシピ本の中の「塩チャーシュー」でグリルデビューです♪ 豚バラブロックを塩で漬け込んでグリルするだけ。たったこれだけなのに、驚くほどジューシーな仕上がりの塩チャーシューが完成しました。脂身の甘さもしっかりと引き出されていて文句なしのおいしさでしたよ。「ラ・クック」の底の波型が余分な脂を落としてくれるというのがヘルシーでいいですね。しかも、ふたをして使うのでグリルの中はほとんど汚れなし！グリル庫内のそうじがいらぬオープン料理なんて、主婦にはめっちゃくちゃうれしいですね。

ところで、レシピには「焼きあがったらすぐに取り出さず、余熱でじっくりと火を通すのがコツです。」ってありました。でも、それって余計にガスを使わないのでガス屋泣かせてってことでは？ う～ん社長、いいんですかー？



文句なしの☆☆☆でした～！

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個)
全員 (3.0)	★★★★ う～ん。豚バラ美味しかったー！でも、社長が上手だったわけではなく、この「ラ・クック」が賢い！ってことだけだね～と、完食しました。
社長 (4.0)	ルール違反！★★★★★ 今回はもし失敗しても★みつつと決めていたんだけど、これは本当にうまいっ！オレは洋カラシを付けて食べるのがいいけど、レモンもいいね。うん、うまい！だから★は4つだ、4つ！

会社でみんなで食べるごはんは、もちろんガス炊飯器を使って炊いています。この日は33雑穀米にして炊きました。脂肉ばかりではダメ！と、付け合わせや副食に野菜をたっぷり用意したマックス。こちら！みんなきれいに食べてくれる中、ばわふるさんだけは隣のお皿に野菜を移していましたよ。それにしても、社長の満足そうなこの笑顔！でもね、社長。ガスコンロと「ラ・クック」がいいからですよ～。



社長のちょっと長いコラム

コンパクトな国がいいですか？

当社のすぐ近くに、JR日高線の東町駅があります。無人の小っちゃな駅です。かつては通学の高校生が乗降車する姿が見られました。わたしも、ときおりこの駅を利用しました。乗用車を置いて札幌や千歳空港に向かうときは、ここから列車に乗ったものです。バスより列車が好きなんです。車内を歩くこともできるし、本を読むこともできます（バスでは酔ってしまうので、本が読めません）。学生たちの浮かれた話を耳にしながら景色を眺めるのも、なかなか良いものでした。ガタンゴトンと揺られながら、いつもより落ち着いた心持ちでいろいろなお話を考えることができました。高速バスで札幌に到着するときは、あーやつと着いた、長かったーと思うのですが、列車の場合は逆です。残念、着いちやつたかー、あとちょっとで本読み終わるのに、という感じです。それくらいバスと列車は違います。わたしは全然鉄道マニアではないのですが、列車は好きなので日高線はなんとか復旧して欲しいと思っています。



JR北海道が廃止路線名を具体的に挙げたことで、道民の関心も高くなったように思います。北海道新聞のシリーズ「揺れる鉄路」を始め、JRの存続と廃線をめぐる記事を読まれた方も多いことでしょう。わたしも読みました。赤字でもローカル線を存続させる選択をしたヨーロッパの国々の事例も紹介されています。わたしは北海道の鉄路も、国が支援して存続させるべきではないかと思っているひとりで、JRは民間企業なんだから赤字路線は廃止すべき」というご意見の方も

少なくないでしょう。もっともです。赤字が悪というよりは、社長の端くれとしてわたしも理解できます。ただ、JRは元々は国鉄です。公共財でした。そこが一私企業とはちがいます。

「そのまま「赤字なので廃線やむなし」という主張を受け入れてしまったとしましょう。では次に、「赤字なので病院閉鎖やむなし」と言われたらどうでしょう。病院経営だってほんとうに大変な世の中です。これから先、日高の人口で病院の採算がどうにもならなくなったとき、日高線と同じく「赤字なので閉鎖やむなし」と受け入れてしまうのでしょうか。あるいは学校や図書館やスポーツのための施設はみんな赤字ですが、赤字だからもうダメと言われたらそれも受け入れてしまうのでしょうか。企業経営と公共サービスを混同するなど言われそうですね。しかし、「そもそも収支が合わない公共サービスが、利用者の少ない田舎にあること自体が税金の無駄づかい。納税者の多い大都市にのみ税金を配分する」と言われたら、みなさんどう思われますか。極論だと笑われるかも知れませんが、でもわたしは、こういう世の中が近づいてきている気がしてならないんです。コンパクト・シティという考えがありますが、そのうちコンパクト・ネーションがいいから田舎には住むなとテレビのコメンテーターたちが言い出すんじゃないかと、いつ頃からか思ったりしています。

納税者の多く住む都会にとっても、ほんとうは田舎は大切なところなんです。過疎の村やマチでは、たくさん農産物を生産しています。離島だって海産物を都市部に送っています。森を守っているのも田舎の人です。リフレッシュする自然もあります。こういう役割を果たしている田舎の人たちには公共サービスは「ぜいたくなもの」なのでしょうか。ぜいたくではなく、都会の人にとつと同様に必要なものだとわたしは思います。



さのばわふる日記



今月の日記のネタは何にしようかな〜と考えていたところにマックスさんが出社！今日の洋服は、何かに似ているな〜と思いつつ話しをしていたら、話しよりもそちらに気がいき頭の中では今月の日記の構成が決定！



ネットで見ると「帽子をかぶったらメガネもそのままソックリだよ」と言う「なんでも協力するよ〜」と即答。それでは、お盆の仮装してもらわなくちゃと工作に着手。帽子だけではないかなと思っていたら、自ら「太鼓の代わりはこれがいんじゃないの？」と用意。写真を撮りながら、「還暦間近のおばちゃん、こんなおバカな事をしていいの〜？」と色々ポーズを決めながら聞くので、「いいの！いいの！おバカなおばちゃん一人くらいいた方が」とモデルさんをおだてる私。そして、「色違いくださいおれマックス」の完成〜！



これにて私の夏休みの工作終了〜！
こんな恥ずかしいモデルをしてくれたマックスさん、ご協力ありがとうございました。この洋服を着ているマックスさんを見かけた方にはきつと幸運が訪れますよ〜♪ 声をかけてみましょう。笑顔で手を振ってくださいますからね〜♪ でも、浦河の夏も終わりに近づいています。くだおれマックスさん曰くこの洋服は「マリンスーツ」だそうで、あと何日着られることやら…この姿のマックスさんに会える確率は低いかも〜。ちなみに、間違っても帽子はかぶっておりませんので、あしからず。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間（4月～9月） 定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:15～5:15 土曜3:00

編集 おはなし家（マックス）

発行部数 3500部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123

